

中学校 第2学年国語科での実践事例

単元名「依頼状やお礼状を書こう」

綾川町立綾南中学校 教諭 岡本 智子

アクティブ・ラーニングの視点からの工夫

- ・職場体験学習終了後に各自がお礼状を書いて、実際に事業所に届けるということを知らせ、学習の必要性を実感できるような課題を設定した。
- ・授業の終末の場面で、推敲する前後のお礼状を比較させることで、推敲した成果を実感させる振り返りの時間を設定した。

1 学習指導過程（本時2／4）

○目標 書いた文章を読み返し、推敲することができる。

学習活動	指導上、留意した点
1 本時の学習課題を確認する。	主 ・相手に対して失礼な表現等が含まれるお礼状を意図的に提示することで、推敲する必要性を感じ取らせる。
感謝の気持ちを伝える職場体験学習のお礼状を書こう	
2 4人グループで下書きを読み合って級友が書いた文章にアドバイスする。	対 ・「手紙の形式」「伝える情報の漏れ」「言葉遣いの適切さ」の3つの観点からアドバイスするよう指示する。
3 級友からもらったアドバイスをもとに、自分のお礼状を推敲する。	深 ・適切な言葉が見つからない生徒には、グループの友だちの書きぶりをまねたり、一緒に考えたりしてもよいことを伝え、話し合いを活発にさせる。
4 本時を振り返る。	深 ・自分が最初に書いたお礼状と比較することで、推敲した成果を実感させる。
〔期待する生徒のまよめのことば〕 推敲して具体的に書くと、推敲する前より気持ちが伝わるお礼状になった。今後は改まった手紙もこの形式で書くことができそうだ。	

2 実践後の成果と課題

○ この授業実践の後、総合的な学習の時間に、職場体験学習のグループ別にお礼状を仕上げた。全ての生徒が、具体的な体験内容やその時の気持ち等を構成に取り入れたお礼状を書くことができたことが最大の成果である。また、グループ内で意見交換する姿も随所に見られるなど生徒は生き生きと学習することができた。

3 本実践での課題

■ 職場体験学習の後、すぐに本実践を行うことが効果的と考える。教材の指導時期については、職場体験学習の期間に合わせて変更する必要がある。国語の授業では、体験を行った事業所がそれぞれ異なる級友との話し合いになるが、同じ職種でグルーピングしてアドバイスし合うことも効果があると考えられる。